

「楽しく努力」 一日一日を大切に

校長 高橋 馨

梅雨の合間にのぞく青空や、日に日に濃くなる緑に、夏へと向かう季節の移ろいを感じます。この時期に迎える七夕は、織姫と彦星が年に一度、天の川を越えて出会うという伝説とともに、季節の流れを感じ、空を見上げるひとときを与えてくれる行事でもあるように思います。

校内では、アジサイやてるてる坊主とあわせて、目標や願い事を記した短冊を掲示している学級もあります。七夕の短冊には、もともと技艺や学びの上達を願う意味が込められていたそうです。願いを言葉にし、日々積み重ねることが力となり、その歩みを続ける大切さは教育の営みにも通じます。生徒一人一人が、自らの願い（目標）と向き合いながら歩む日々を、私たち教員は「優しく」見守り、支えてまいります。また、4月の学校だよりで紹介した昭和47年の教育実習生の言葉に、「青鳥の生徒さんたちは楽しそうに努力をしている」という一節がありました。その言葉に表れている先輩たちの姿を受け継ぎ、生徒たちが目標に向かって前向きに取り組む、「楽しく努力」を積み重ねていけるよう、引き続き「優しく」をすべての教育活動の基本姿勢として学校づくりを進めてまいります。

まもなく夏休みを迎えます。「楽しく努力」を続けながら、さまざまな経験を積み、充実した時間を過ごせるよう、学校と家庭で目標を共有した上で終業式を迎えたいと考えています。今後も学校と家庭の緊密な連携への御理解と御協力をお願いいたします。2学期、皆さんの笑顔を楽しみにしています。

防災デー

「天災は忘れた頃にやってくる」という格言がありますが、近年はさまざまな災害の報道が続いています。地震や火災、ゲリラ豪雨による浸水、土砂災害など枚挙にいとまがありません。今年は初期消火や救助・救出訓練に加え、起震車体験や避難所体験も行いました。こうした体験が役立つ日が来ないに越したことはありませんが、「備えあれば憂いなし」の思いで取り組んだ一日でした。（太田 健司）



八丈分教室

6月6日（土）に、青鳥特別支援学校八丈分教室・八丈高等学校合同の体育祭を実施しました。天候等の影響により予定を変更しながらの開催となりましたが、生徒たちは八丈高校の生徒たちと声を掛け合いながら協力し、笑顔で競技に取り組みました。最後にはお互いの校歌を歌い、一体感に包まれて閉会しました。仲間と力を合わせて挑戦したこの経験は、生徒たちにとって青春の思い出の1ページとなったことと思います。（板橋 双葉）

